

6月

定例議会質問

池邨 善満

Q: 茶農家の収益向上が期待される発酵茶の可能性と今後の取組みについて

二番茶以降の茶葉需要増が期待される発酵茶に加工して販売することで、茶農家の収益向上が期待できる発酵茶をどのように考え、具体的施策をどのように考えるか？

A: 発酵茶は、色、香り、味に緑茶とは異なる個性があり、消費者の選ぶ楽しみも広がり、多様な嗜好に対応できるお茶のまち静岡市をPRする一つの要素になりうる。このため、今後「静岡市茶どころ日本一計画」で進める産地の個性を活かした“消費者に選ばれるお茶”の一つに位置付けていきたい。現在、発酵茶等の研究をすすめているJA清水や発酵茶を経営に導入しようとする認定農業者などに対し、今後、どのような支援が効果的であるか検討していく。

新政会 しんせいかい だより

中山 道晴

Q: これからの地域福祉の在り方と推進について

「地域社会で支援を求めている者に住民が気付き、住民相互で支援活動を行う」という地域における新たな支え合いが必要である。市で進めている地域福祉計画の進捗や住民とともに地域福祉を進めている市社会福祉協議会の役割、また困りごと相談を行っている民生委員の抱える課題などを問い質した。



A: 当局からは、市の進めている地域福祉計画と市社会福祉協議会の地域福祉活動計画を両輪として進めていきたい。民生委員に対しても現状を理解した上で今までに以上活動を支援していくとの回答があった。さらに地域で困っている人を拾い上げ、すみやかに関係機関・専門機関につなげるという総合相談・援助体制をどう構築していくかという課題には、地域福祉推進のための活動拠点確保や地区社協のS型サービスをさらに充実させていくとの回答をいただいた。



新政会では
様々な意見交換を
行っています

田辺市長との政策情報交換会議

第4回 平成24年3月29日

第5回 平成24年6月8日

田辺市長と新政会とで定期的に行っている「政策情報交換会議」の第4回、第5回会議を開催。今回は、今年度新たに設置された地域活性化事業推進本部の進捗状況や課題、また企業の流出防止などの産業政策について活発な意見交換を行った。



浜松市議会との情報交換会議 平成24年4月12日

同じ静岡県内の政令市である浜松市の会派「市民クラブ」の皆さん6名と第2回情報交換会議を開催。今回議題としたテーマは以下の5つ。①議員定数削減について ②津波対策について ③震災による環境変化に伴う企業誘致及び留致について④浜松市の小中一貫教育と保育行政について ⑤浜松市市民マスコット「家康くん」と静岡市駿府城及び久能山東照宮について



限られた時間の中で活発な意見交換が行われ、特に議員定数削減では浜松市が54名から46名に削減した事に対し、様々な質問があり参考となった。

藤本参議との意見交換会議 平成24年6月16日

藤本祐司参議院議員との意見交換会議を開催。

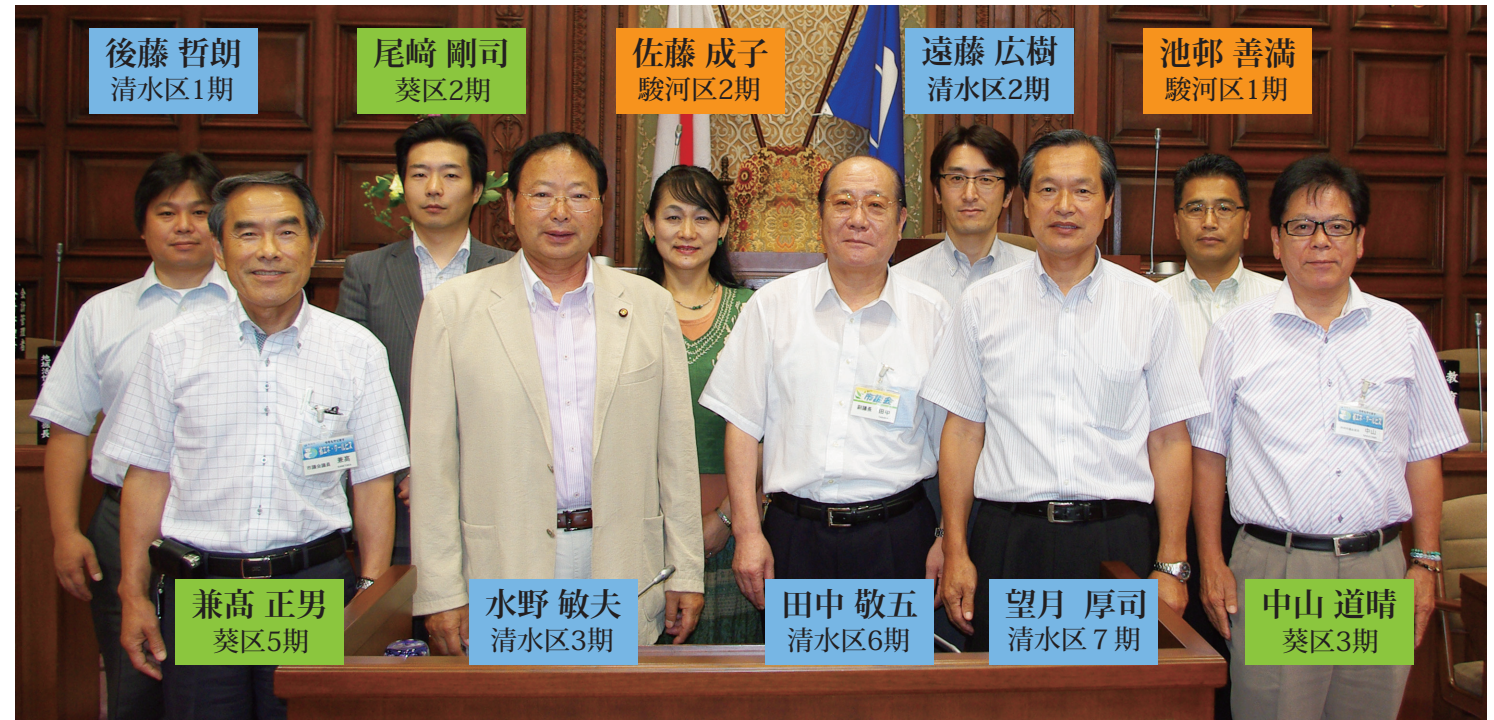
9月に総合特区申請を目指している静岡市の観光政策へのアドバイスをいただき、これから経済的成長が期待できる地域との今後の国際交流等について意見交換を行った。



■ 静岡市議会 ■ 新政会 ■ 広報誌 ■

新政会 しんせいかい だより

平成24年度 新政会新体制 START!!



執行部

会長 ▶ 望月厚司 幹事長 ▶ 中山道晴 総務会長 ▶ 遠藤広樹 政調会長 ▶ 尾崎剛司

■ 常任委員会 ■

議会運営委員会	○尾崎 剛司	遠藤 広樹
総務委員会	○池邨 善満	尾崎 剛司
生活文化環境委員会	◎佐藤 成子	遠藤 広樹
厚生委員会	望月 厚司	
経済消防委員会	後藤 哲朗	田中 敬五
都市建設委員会	水野 敏夫	兼高 正男
下水道教育委員会	中山 道晴	

■ 監査・農業委員会 ■

監査委員	水野 敏夫
農業委員	兼高 正男

■ 特別委員会 ■

総合治水及び海岸保全及び防災対策	中山 道晴	望月 厚司
中山間地活性化・有度山整備促進	○後藤 哲朗	佐藤 成子
新都市拠点整備・公共交通対策調査	池邨 善満	兼高 正男
大規模社会資本利活用調査	◎遠藤 広樹	尾崎 剛司
	水野 敏夫	

田中敬五議員
副議長に就任！

4月27日の臨時議会において、全49議員が投票し44票を得て、田中敬五議員が副議長に選出されました。

4月26日に行われた所信表明では、議会における副議長としての、その役割・責務・使命を全うするため、最大限の努力を傾注していきたいと所信を述べました。



■ 議会改革特別委員会 ■

○望月 厚司 遠藤 広樹 尾崎 剛司

■ 付属機関・組合議会 ■

静岡市清掃公社理事	池邨 善満
競輪運営協議会委員	○遠藤 広樹 尾崎 剛司
清掃対策審議会委員	佐藤 成子
都市計画審議会委員	中山 道晴
蒲原総合病院組合議会	後藤 哲朗

平成24年7月10日発行

第12号

発行/静岡市議会 新政会
編集/新政会 広報部
〒420-8602
静岡市葵区追手町5番1号
TEL 054-254-2111
(内4505)
FAX 054-653-3412

災害廃棄物処理施設視察

～岩手県大槌地区・山田地区～ 兼高 正男

3・11 東北大震災での岩手県における災害廃棄物の量は約 4 7 6 万トンで岩手県内で一年に発生する一般廃棄物量の約 1 1 年分にあたる。これまでに仮置き場・処理施設を設置しているがその膨大ながれき量や、仮置き場からの火災の発生、夏場の悪臭や蚊・ハエ等の異常発生が懸念されており早期の復旧・復興を望む地域住民の大きな課題となっている。特に今回、本市が試験焼却の受け入れを表明している山田町の災害廃棄物は深刻であり、その災害廃棄物量は 35 万 9 千トンで通常の廃棄物処理量の約 67 年分、そのうち 2 月末までに処理できたのは全体の約 5% である。施設を最大限活用しても県内で 3 年以内に処理可能な量は約 125 万 t で、岩手県内だけでは処理できず広域処理が必要との説明があった。大槌地区災害廃棄物破碎・選別業務を実施している施設、山田町の災害廃棄物破碎・選別

施設や仮置き場は、公園用地や民間農などを利用して広大な土地に設定されている。被災現場から搬入された被災がれきの一部は種類毎に大量に山積みされ超大型の破碎・選別機械によるがれきの分別処理が行われていた。人力による選別もされていて廃棄物の種類・量などの変動への対応も確実に実施されており、破碎・選別ヤードには大型テントも設置されフル稼働の体制が整っていた。既に本市で試験焼却のため搬入予定の木材がれきはチップ化、選別されて一部山積みにして保管されていた。今回の試験焼却、本格受け入れで一番懸念されている放射能汚染の有無に対しては、定期的に測定が実施されており搬出時にも最終的な測定が義務付けられている。今回の現地視察で選別チップ化されたがれきの測定を実施し基準値以下であることを確認する事が出来た。



大槌地区災害廃棄物破壊・選別施設全景



災害廃棄物放射能測定実施

山田地区災害廃棄物破壊・選別施設大型テント内

六ヶ所村視察

佐藤 成子

20 数年前、青森市に住んでいた頃、原子燃料サイクル施設の開発が始まっており、まだ何もなかったただ広大な土地に道路だけが建設されていたのを見学している。なぜこんな列島の端に建設するのか、危険はないのかと思った記憶がある。日本原燃の所長の説明では、今六ヶ所村には「使用済燃料受入貯蔵施設」「ウラン濃縮工場」「低レベル放射性廃棄物埋設センター」「高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター」があり、日本で唯一の施設である。今後、今年 10 月竣工の「再処理工場」2016 年竣工の「MAX 燃料工場」が稼働する予定との

こと。現在日本のエネルギーは、原子力発電が約 3 割を占めているが、発電所を稼働させるか否か、代替エネルギーをどうしていくかなど課題は多い。かなり厳しい警備を通過しながらの視察。核を持たず、濃縮ウランの再処理が許可されているのは日本だけとのことだ。施設の中に検査官が 24 時間常駐しており、物々しい感じがした。核の平和利用は、安心安全の担保なくしては考えられない。3・11 の教訓をどう生かすかが問題だ。ちなみに、あのように破損した燃料はここでは処理できないとのことだった。



商店街活性化政策調査

～大分県豊後高田市「昭和のまち」～

兼高正男・中山道晴・佐藤成子
遠藤広樹・池邨善満・後藤哲朗



豊後高田市中心市街部の商店街は、昭和 40 年代までは国東半島で最も栄え、300 店ほどの商店街であったが、大型店の郊外出店や過疎化のため衰退し、近年は寂れた状態であった。しかし、商店街をなんとか活性化したいとの思いから自分たちでできることをやろうということで、地元の方が中心となった議論が始まった。結果、昭和 30 年代以前の古い建物が約 7 割も残っていることを最大限活用し、昭和の 30 年代の街並みを再現した「昭和のまち」がつくられた。最初 7 店舗だった商店も 2006 年には 38 店に広がりを見せ、現在では 27 万人の観光客が訪れている。地方都市再生の成功例として注目されており、2006 年には JTB 交流文化賞優秀賞を受賞している。静岡市でも静岡の色を出す施策が必要であり、おもてなしの心をもった対策が必要だ。

エネルギー政策調査

～浜岡原子力発電所・武豊メガソーラー・東郷水力発電所～

望月厚司・兼高正男・中山道晴・水野敏夫
遠藤広樹・尾崎剛司・池邨善満・後藤哲朗

平成 24 年 5 月 22 日、「浜岡原子力発電所」・「武豊火力発電所」・「愛知用水東郷発電所」に伺い現地を視察し調査を行った。浜岡原子力発電所においては、東日本大震災を受けて新たな浸水防止対策・冷却機能確保等の強化・防波壁の概要等、現状の対策と今後のスケジュールについて調査を行った。武豊火力発電所においては、浜岡原発の停止に伴い長期計画停止中の火力発電所の復

旧状況並びに、火力発電所に隣接する太陽光発電所「メガソーラたけとよ」の調査を行った。太陽光発電施設の敷地面積は 14 万㎡で、年間発電量 730 万 kWh とのこと、一般家庭の年間消費電力に換算すると 4 人世帯の平均で 2,000 世帯分を超える家庭の年間消費電力量が想定される。愛知用水東郷発電所においては、小水力発電施設の調査を行った。年間の発電計画は「メガソーラたけとよ」と同様であったが、太陽光発電とは違い安定した電力並びに昼夜問わず発電し続けることができる同施設は本市にとっても活用検討の必要性があると考えます。

